

日時：平成27年4月17日（金） 18：30～20：15

会場：練馬区立区民・産業プラザ（ココネリ） 研修室2

1. 事務局長挨拶

日頃より、地域福祉活動計画の策定についてはご協力いただき感謝申し上げます。介護保険法の改正、生活困窮者自立支援法に基づく新規事業を社協で受けることになった。地域福祉活動と密接な関係があるので第4次活動計画にも意識して整理していきたい。今年度も皆様の貴重な意見をいただきたい。

委嘱状について

私どもから各委員へお願いした任期は26年度3月までであったが、区の計画策定の時期が27年度に延長されたこともあり区の計画と社協の計画は連動している関係から引き続き委員の継続をお願いしたい。

2. 配布資料確認

副委員長挨拶

本日は、第3次活動計画の進捗状況と次期計画について検討を行う。委員長が不在であるが、意義のある話し合いができるよう協力を願う。

3. 練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画について

新計画策定のスケジュール案の説明を行う。今年度から策定に向けての検討を始める。昨年は区民の意見や要望を聞く期間とした。懇談会を設けたり区民意識意向調査、地域福祉に携わっている方へのアンケート調査を行っている。その意見を受けて今年度策定していく。

区の基本となる計画である「みどりの風吹くまちビジョン」は、本年3月に策定し区報などで周知している。このプランは5年間の計画となっている。重点的に取り組む分野を明確にした。合計で18の重点項目がある。8の「つながり見守る地域づくり」が地域福祉計画と関連がある。具体的には、

「平常時にゆるやかに見守り合える地域づくり」

- ・17か所の出張所等を拠点に取り組む。社協の豊富な知見やノウハウを活用していきたい。

「災害時の要援護者支援の充実」

- ・災害時の要援護者支援。これまでの取り組みを強化・充実させる。

「みどりの風吹くまちビジョン」を上位計画として、地域福祉・福祉のまちづくり総合計画を策定する。計画の内容についての検討はこれからである。計画策定に当たっては飯村委員にもご協力いただく。本日はスケジュールを中心に説明した。

4. 第3次地域福祉活動計画26年度進捗状況報告

資料1・2・3をもとに説明

委員：各部署の取り組みの報告があったが、成果に至るところにも細かい取り組みがあったと思う。そのような相談がくること、頼られることになるまでいろいろな仕掛けをしていると感じられること、それを実施した効果はととても大切なことだ思っている。実現したこと以外にももっとそれをPRできると良い。

安全対策委員会について、災害ボラセンの取り組みに関して、区の長期ビジョンを見据えた災害時要援護者等対応など練馬区社協の取り組みを出していくことが必要になってくるのではないかと。

副委員長：取り組み状況の報告を聞いて、社協が具体的に計画をかなり意識されて動いているという印象を受けた。

職員：活動計画の実施においてオール社協で動いている。理念の大事な部分を各部署で理解して動いている成果であると考えている。

5. 第4次地域福祉活動計画策定について

第4次計画素案について

資料4・5・6をもとに説明

全体の構成は50ページ位と考えている。第4次計画では取り組み内容と方向性を第2章に入る予定である。第3次活動計画の取り組み状況や資料6の社会福祉の動向は第5章に、計画の体系図は第2章に入る予定である。

第2章1.(2)ではなぜ二つの視点なのかと二つの視点の違いを具体的に記載していく。資料5の第4次地域福祉活動計画取り組み項目(案)は、第2章に入る予定である。地域の気づきの視点、個別の育ちあいの視点という二つの視点において、重点的に何をするのかまとめていく。資料5の右側に「(3年後の)目指す姿」とあるが、(3年後の)という表記をとり「目指す姿」となる。

第3章1.では住民である地域福祉協働推進員と一緒に取り組んでいきたいという内容にしたい。

地域福祉協働推進員を募集するチラシ案について

資料7をもとに説明

地域福祉協働推進員の(仮)を取りたい。固い名称であるので愛称があると良いという意見をいただき社協のキャラクターのネリーにちなんだ「ネリーズ」、子どもに関しては「ネリーキッズ」としたい。ネリーズは「日々の暮らしのなかで思いやりを持って暮らしている方」「自分たちの地域を良くしたいと考える方」「それぞれの立場でやれること、できることをやっている方々」をイメージしている。活動の具体例はチラシ案を参照していただきたい。

1月9日(策定推進評価委員会)以降の地域福祉協働推進員についての動きを3点報告する。

① 1月26日「会員感謝の集い」において呼びかけを行い38名の方が登録された。2月に38名の方に手書きのメッセージを添えたお礼状を送付した。お礼状に各部署の近日開催予定イベントの情報を掲載したところ、2名の方にイベントのご参加をいただいた。

②ネリーズについてどこから着手し、どのように動いていくかを検討するため作業部会を立ち上げた。作業部会には森委員にご出席いただいている。

③ 3月30日開催の理事会及び評議員会で説明を行った。理事会・評議員会においては各会議のメンバーである策定・推進評価委員からもネリーズについてお話いただいた。ネリーズについては、作業所の家族会や民児協など既存の集まりでも周知をしていく。拠点においても懇談会等を開催予定である。

チラシの用途としては説明時のツールにしたい。どこかに置いて自由に持っていってもらいたいということは想定していない。内容については普段の生活の一端がすでにネリーズの活動と考えますということや「あ、それならもうやっている」と気づいていただけるのが理想である。

チラシは6つの要素の組み合わせで作成されている。

① キャッチフレーズ ②目的(地域福祉協働推進員になってほしい) ③名称の由来 ④ネリーズの説明
⑤活動の具体例 ⑥問い合わせ先

文言・表現、見やすさなど意見をいただきたい。

副委員長：担当者の意欲が感じられるチラシである。

委員：第3次計画における報告があったが社協内の各委員会と第4次地域福祉活動計画との関係を説明してほしい。

職員：各委員会は計画策定年の1年目ということもありまだ煮詰まっていない状態で事業計画案を作成

しているが、取り組みの内容は第4次地域福祉活動計画の体系図をもとに各委員会で議論している。委員会については第2章に盛り込んでいく。資料5の第4次地域福祉活動計画取り組み項目に委員会の取り組みを記載していく。

委員：計画全体と委員会の関係。計画の個別の部分に関わるのか、社協の中でどのように位置づけられ関わってくるのか知りたい。

職員：第2次計画では委員会そのものが重点項目であった。第4次計画は視点を中心に体系図を作ってきた。2次計画で立ち上がった委員会・PTを3次計画で引き継いできている経緯があり、第4次においても体系図にある2つの視点に基づいて取り組みを行っていく。

委員：体系図は委員会の共通の部分でもあるし、中身の部分という意味でよいか。

職員：そのとおりである。また、第4次計画では執筆も共にして下さる委員も募集している。

委員：ネリーズはネリーの仲間みたいな感じであり良い。

委員：チラシは配布しないとの説明だったが、どのように用いるのか。

職員：チラシの内容だけだと限られた情報になってしまい誤った印象や理解があると思われる。逆に分かりやすくするために多くの説明を省き、説明をする時にチラシを添えたい。例えば町会の役員会などの会合に出席した時に配れると良い。

委員：そういう想定であれば細かい字は少ないほうがよいのではないか。

職員：かるたの部分でも意見が欲しい。「お年寄り」の言葉について、抵抗を感じる方もいるのではないかという意見もあった。

委員：自分は76歳だが抵抗を感じない。

副委員長：「ネリーズとつながる」という表現が引っかかる。

委員：「ネリーズがつながって」の誤植。申し訳ない。あなたとわたしがつながって「ネリーズ」という意味である。

委員：2点違和感がある。ネリーズとつながらなくてもよいのではないか。「思いやりを持って暮らしている人たちをネリーズ」という箇所は、ネリーズになっていただいた際の負担感を減らそうというの分かるが、「思いやりを持って」というよりも「福祉の街を作るために活動する地域住民」がネリーズとストレートに言ってしまうのもよいと思う。

副委員長：「あれ？」と違和感を持ったことは大事なことである。

委員：2種類の人がいるのではないか。このチラシを見てわかる人へはこのチラシで充分である。もう一方ではネリーズについて関心を持った人に対しての説明文も必要である。目を引くものに関心のある人に見てもらいたいとあると良い。

委員：ネリーズという言葉が響いてこない。

副委員長：内部で盛り上がりはあるが、改めて愛称を広く募集するのも良い。

職員：行政においてもサポーターをはじめとして様々な愛称を使用している。

委員：「思いやりある暮らし」というのはどこまで求めるのかわかりにくい。ハードルを下げるのであればこのままで良いが。何をするのかもう少し議論して良いと思う。理想の街というイメージは一人ひとり違う。

委員：地域福祉協働推進員になったら何をすることを期待されるのか。

職員：それぞれの立場で違ってくる。自分が福祉のまちづくりをしているということを発信していきたい。自分のできる場所で活動している人たちと地域福祉コーディネーターとで一緒に街づくりができると思う。

委員：「支え合いのできる街づくりをやっていきます」と言える人を増やそうということ。

委員：愛称はネリーズで良い。始めは慣れないが徐々に慣れていくものである。

委員：地域福祉協働推進員となると、そうしたことを表明することに慣れない人もいるので「ネリーズ（地域福祉協働推進員）」と愛称としてネリーズを前に出すことで入りやすい人もいる。カルタ

では「これやっている」という行動が福祉に役立っているということに気づかない人もいる。「これも福祉ですよ」という直接的な言葉の方が良いのではないかと。

委員：ネリーズのチラシを自分の町会で使うことを想定したらまず「あなたはネリーズですよ」と伝えインパクトを与える。そこで出席者が耳を傾けたら説明して理解してもらおう。

区職員：西大泉ではまちなかレポーターという名称で活動していただいた。

委員：ネリマーズはどうか。

副委員長：愛称についてはもう少し時間をかけて考えていけば良い。地域福祉協働推進員は変わらない。説明をもう少し分かり易くする必要がある。

委員：案の2, 3で受け取る印象が違う。

職員：いただいた意見をもとにさらに良いものにしていきたい。

6. まとめ

副委員長 第2次地域福祉活動計画から関わってきているがその頃の社協は6部署であった。活動計画を策定するにあたり本日も多くの職員が出席しており、つながりを感じる。それぞれの持ち場で職員が意識を共有し、理念を体現していく努力をしていることが分かる。第4次地域福祉活動計画に至っては社協だけでなく本当に地域の人たちと地域を作ろうとしていると感じ、社協本来の姿に近づいているように思う。支援の必要な人たちが実はつながりを作る大きな力になっている。社協が現場を持つ一つの意味になっていると思う。区の計画が12月に策定されるということプラスにと捉えてじっくりと皆で揉んで良い内容の計画を作っていきたい。各委員も執筆への積極的な協力をお願いしたい。

委員：地域福祉活動計画と練馬区との関係性はどうなっているのか。社協の計画が先行しているように感じる。

委員：対等の関係。区から見ると社協は最大のパートナー、お互いが同じ方向を向いていないといけな

委員：新しいことをやろうという時に区はしっかり協力してほしい。連携が必要である。

7. 次回の日程について

6月の開催を予定している日時場所が確定次第、各委員へは連絡する。

<配布資料>

- 資料1 第3次地域福祉活動計画の取り組み状況
- 資料2 平成26年度第3次地域福祉活動計画事業進捗状況
- 資料3 委員会・PT報告書
- 資料4 第4次地域福祉活動計画目次案
- 資料5 第4次地域福祉活動計画取り組み項目案
- 資料6 社会福祉の動向
- 資料7 地域協働推進員チラシ案

当日資料 (区) 新計画策定のスケジュール